

## 5 角田市中心部地区

### (1) 景観計画区域

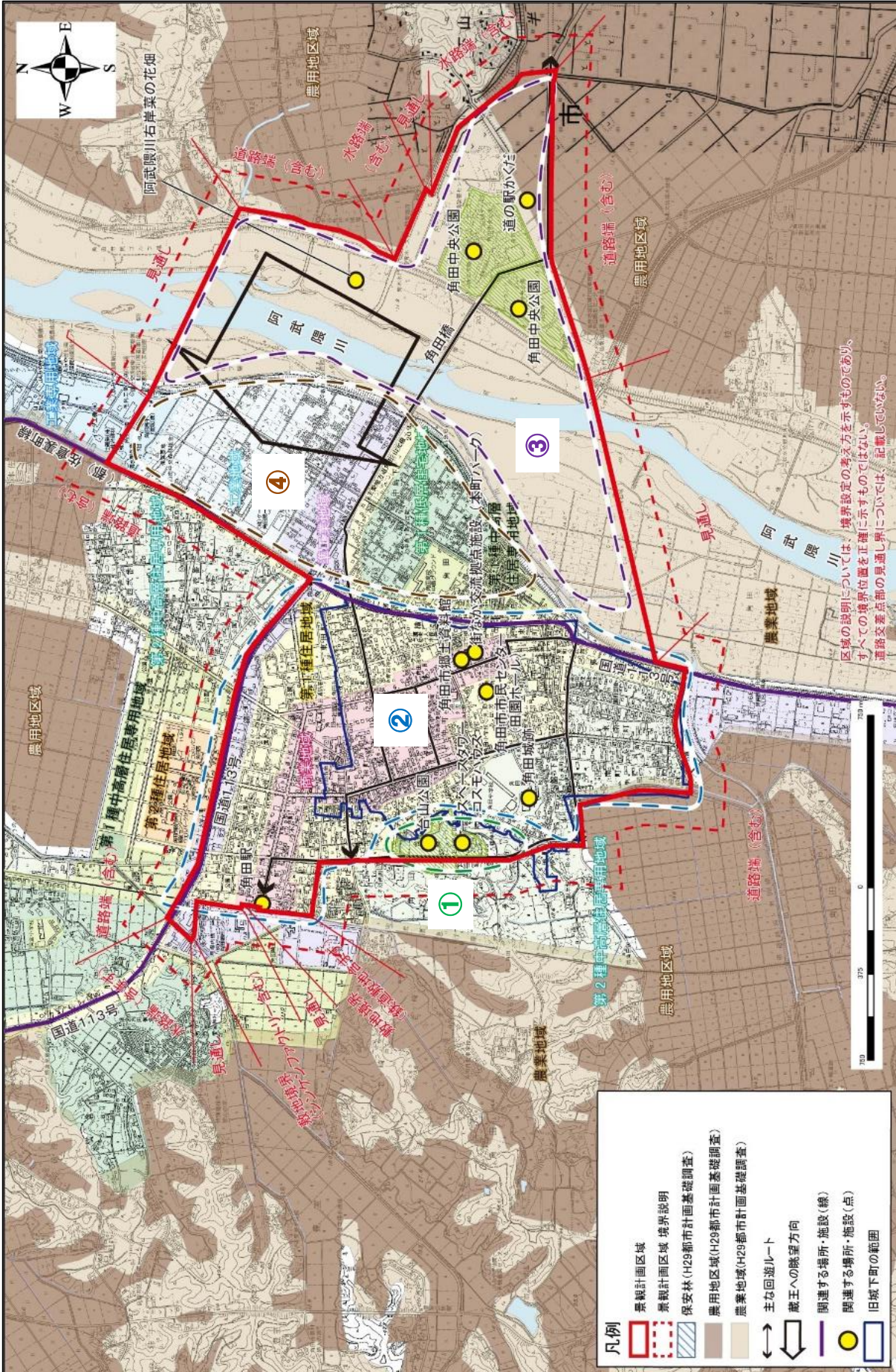
角田市中心部地区の区域図を以下に示します。



## 【区域の考え方】

角田市中心部地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none"><li>・旧城下町に由来する基盤を継承した角田市の中心を担う市街地で、かつ阿武隈川の水運の中継地として栄えた歴史性を継承するとともに、阿武隈川沿いに広がる市街地特性を活かし、豊かな水の流れを湛える美しい河川景観や河川沿いからの蔵王連峰への眺望を活かした市街地景観の形成を図ることを目的とする。</li><li>・角田市の中心部及び阿武隈川沿いにおける官民が協力・連携した景観まちづくりのきっかけにつなげ、角田市らしさを育む市街地景観の形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。</li></ul>
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・阿武隈川が緩やかに蛇行を繰り返しながら、水面と河川敷、周囲の市街地や農村集落が一体となって穏やかな景観を形成している。特に、角田中央公園から角田橋にかけては、河川敷の菜の花や桜並木が一体となり、春には遠く蔵王連峰が一体となった河川景観を望むことができる。</li></ul> <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市街地は河川堤防より低く高低差がほぼ無い平野部に広がり、主に2～3階建ての建物が並ぶ市街地景観となっている。</li><li>・国道113号及び（都）佐倉裏町線沿いは街路樹が植えられている。</li><li>・旧城下町のエリアは現在市街地となっており、角田城跡は現在高等学校となっている。</li><li>・角田宇宙センターには実物大のロケットがあり、堤防などの区域内の高台から見ることができる。</li></ul>
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>阿武隈川沿いに位置する歴史的な都市である角田市の核を担う中心部を対象に、景観まちづくりの観点から、景観形成を通して一体的な市街地環境の保全・形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方（丸数字は、次ページの図中の丸数字に対応）</p> <p>①角田城址・台山公園を中心とした丘陵地</p> <p>市街地の背景となる緑の景観として保全を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>②城址の東に整備された城下町の町割を継承した歴史的な中心部から近代の玄関口を担う角田駅周辺にかけて</p> <p>角田市の歴史性を継承しつつ、市の中心部としての賑わいある市街地環境の形成を目指した一体的な取組が必要であるため、区域に含めた。</p> <p>③阿武隈川沿いの良好な景観を活かしたスポーツ・レクリエーション拠点や賑わいの交流拠点を担う角田中央公園周辺</p> <p>阿武隈川を挟んで中心市街地と一体的に、角田市のまちづくりを牽引するエリアとして、また阿武隈川沿いの菜の花畑などの景観や蔵王連峰への見通しを活かした魅力ある空間づくりを目指し、一体的な景観の保全・形成を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>④阿武隈川左岸に位置し、城下町と阿武隈川に挟まれた中島・高畑地区</p> <p>中心部から連続する市街地で、かつ阿武隈川沿いの景観や蔵王連峰への見通しと調和した市街地環境の形成が必要であるため、①～③と一体で区域に含めた。</p>



区域の説明については、境界設定の考え方を示すものであり、  
 寸べての境界位置を正確に示すものではない。  
 道路交差点部の見通し界については、記載していない。

▲ 区域設定検討図

## (2) 景観形成方針

角田市中心部地区における景観形成方針を以下に示します。

### ■ 自然景観の保全

- ・角田城址，台山公園を中心とした丘陵地の緑が作り出す潤いある自然景観の保全を図る。
- ・阿武隈川の環境を保全するとともに，水と桜等の木々が作り出す潤いある水辺景観の保全を図る。

### ■ 農の営み等とともにある景観の継承

- ・河川沿いに広がる農地では，広がりのある農業景観の継承に努めるとともに，遊休農地等では菜の花や蓮華等の景観作物を活かした田園景観の形成を図る。

### ■ 個性を活かす景観の創出

- ・中心部では，地域の景観資源を活かし，住む人，訪れる人が心地よく感じられる市街地景観の形成を図る。
- ・阿武隈川沿いに広がる市街地では，河川堤防や橋からの眺めに配慮し，まとまりと潤いを感じさせる景観形成を図る。
- ・遠方にそびえる蔵王連峰への眺望と調和し，魅力ある眺望を活かした景観形成を図る。

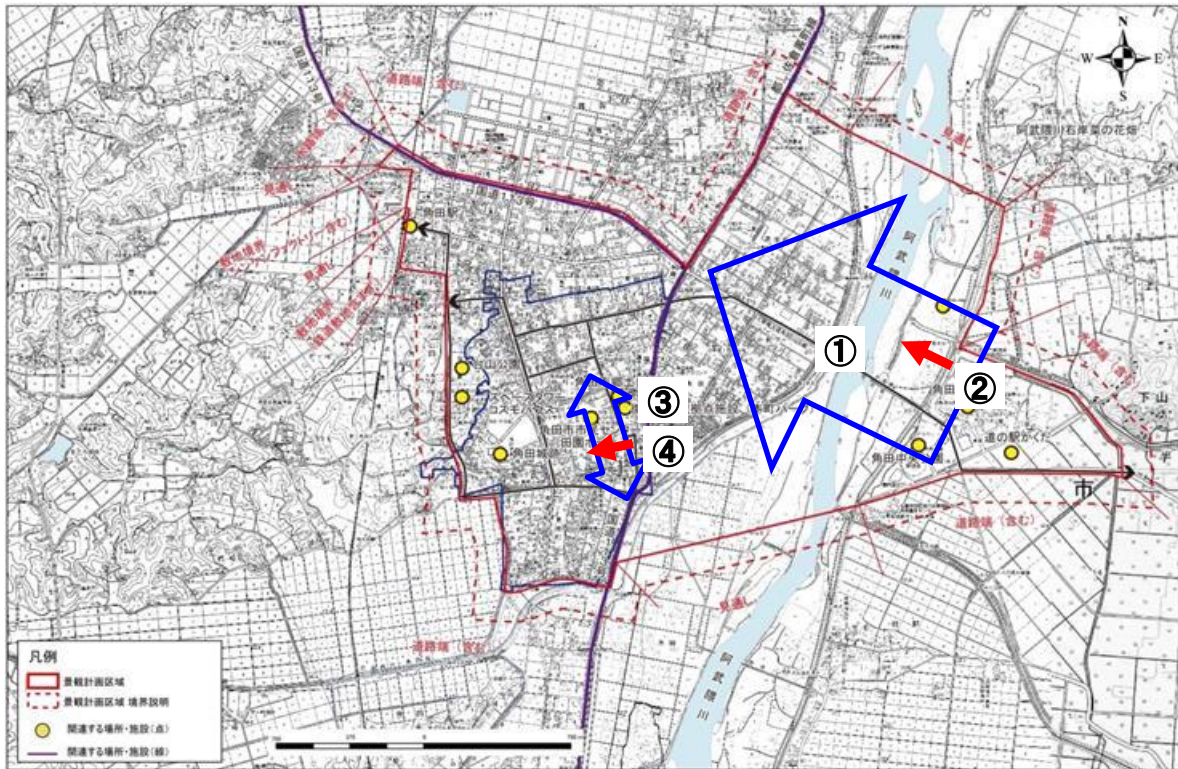
### (3) 景観形成基準

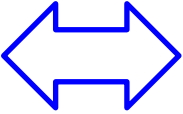

角田市中心部地区における景観形成基準を以下に示します。

#### ▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■:地域の特徴を踏まえた基準
建築物 ・工作物	配置 ・位置	<input type="checkbox"/> 周囲との連続性に配慮した配置とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 阿武隈川沿いでは、水辺の自然景観を阻害しない配置とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある市街地景観の形成に努める。
	高さ	<input checked="" type="checkbox"/> 阿武隈川沿いからの眺望に配慮し、蔵王連峰の山並みを阻害せず、周囲と調和した高さとする。 <input type="checkbox"/> その他のエリアでは、周囲と調和した高さとする。
	形態 ・意匠	<input checked="" type="checkbox"/> 駅周辺等の商業系市街地の通りに面して低層部に開口部を設ける等により、遮へいを低減し、歩行者からの見え方に配慮した賑わいを創出する景観の形成を図る。 <input type="checkbox"/> その他のエリアでは、周囲から突出する奇抜なものは避け、周囲と調和した屋根、外壁等の形態・意匠とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 阿武隈川沿いから蔵王連峰への眺望に配慮した形態・意匠とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。
	色彩 ・素材	<input type="checkbox"/> 地域の景観資源との調和に配慮し、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。 <input type="checkbox"/> 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。 <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。
	設備類	<input type="checkbox"/> 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。
	外構 ・緑化 等	<input type="checkbox"/> 道路との境界部にオープンスペースを設ける場合には、樹木や花壇等を活用し、潤いある通り景観の創出に配慮する。 <input type="checkbox"/> 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。
開発行為 ・土地の形質の変更 ・木竹の植栽 伐採	造成等	<input type="checkbox"/> 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。 <input type="checkbox"/> 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。
	既存樹木・樹林等の保全	<input type="checkbox"/> 地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。 <input type="checkbox"/> 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。 <input type="checkbox"/> 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。

(参考) 区域で見られる景観 (丸数字は、次ページの表中の丸数字に対応)



<p>凡例</p> 	<p>地域を象徴する景観が見られるおおよその範囲 及び向き</p>
	<p>写真の撮影場所・エリア及び写真の撮影方向</p>

区域で見られる景観	説明
 <p>①角田市市街地と蔵王連峰</p>  <p>②阿武隈川右岸菜の花畑と蔵王連峰 (図内赤矢印)</p>	<p><b>●阿武隈川と菜の花畑</b></p> <p>当該地区は低平地に低層の建築物を中心とした街並みが広がり、河川堤防や角田橋などの小高い場所から阿武隈川の流れとともに市街地を望むことができる。また、河川敷には菜の花畑が広がり、春には黄色のじゅうたんが広がる。市街地の向こうには角田市と白石市を隔てる丘陵地が南北に伸び、さらにその向こうには蔵王連峰が控えている。</p> <p>天候によっては遠景の蔵王連峰を望むことができ、市街地や丘陵地、阿武隈川、菜の花畑とともに角田市を象徴する代表的な景観を形成している。</p>
 <p>③角田市郷土資料館</p>  <p>④角田市郷土資料館本町パーク (図内赤矢印)</p>	<p><b>●旧城下町の名残が見られる街並み</b></p> <p>市街地の中心部は、旧城下町の街割りが残り、縦長の敷地が道路沿いに並んだ街並み景観が形成されている。角田市郷土資料館は、明治から大正にかけて建築された邸宅で、街並みの歴史性を象徴する景観の要素となっている。</p>

